

2017年度

事業計画  
一般会計予算



一般社団法人 津山青年会議所

第60代理事長 鳥越俊之

## 年頭所感

「全ての責任は我にあり」

我々はJAYCEEとして、常に自分自身と向き合わなければならない。

人は感動を重ねるごとに成長し、その感動には必ず誰かが存在している。そんな人との出会いを多く与えてくれるのが青年会議所であり、一つひとつの出会いを心から大切にしたい。我々の住み暮らすつやまを心から愛し、つやまの未来を夢見て、積極果敢に挑戦し続けることで、自己研鑽を積み、心に刻まれる感動をしよう。

1949年、戦後の混沌とした時代の中、祖国日本再建への使命感と情熱に溢れた青年が集い、日本に青年会議所が誕生しました。この理想主義の運動は日本各地の指導的若年層に深い共感を与え伝播していく中、このつやまにも先輩方の「明るい豊かな社会」の実現にむかって邁進するという確固たる想いのもと、1958年に津山青年会議所が誕生しました。我々が敬愛してやまない先輩方の汗と涙、そして何よりもつやまを愛し、つやまの未来を夢見て積極果敢に努力と想いを積み上げられた尊い年月を経て、本年（一社）津山青年会議所は創立60周年を迎えます。

この節目の年を迎えるにあたり、まずは先輩方の創始の想いを今一度見つめ直し、我々が地域からの信頼と期待を背負い運動・活動出来ることへの感謝の気持ちをしっかりともたなければなりません。そして改めてJAYCEEとしての責任と役割を自覚し、積極的に青年会議所の存在意義を示すための運動・活動を展開・発信することが必要であります。

現在の日本は景気回復の兆しは見えるものの、依然地方経済は低迷し、少子・高齢化、人口減少、財政問題、震災からの復興課題への関心の低下やエネルギー問題などJAYCEEとして我々が住み暮らす地域への関心をもつことだけでなく、国と地方を総合的に捉え将来を見据えた運動展開が必要となっています。また世界各国を揺るがす過激派によるテロ行為や不安定な世界経済情勢など、連日のマスコミ報道においても命の尊厳と未来への希望が失われるような危機感と不安感を感じ、将来を担う子供達の健やかな成長さえもおびやかす、我々JAYCEEにとってもこれからの「明るい豊かな社会」の実現に向けての新たな行動指針を示す岐路に立っていると考えます。

だからこそ、語るだけでなく、果敢なる行動そして何よりも背中で語ることの出来るJAYCEE

Eとして、家族を守り、友を助け、次代を慈しみ、地域を心から愛し、我々が生まれた日本国に愛着とその精神に誇りをもち、様々な困難や課題から目をそらすことなく目的意識をもち、前に進み続けることがこの現状を打破し未来に希望という光を落すことにつながると考えます。

私たちが住み暮らすつやまは豊かな自然と文化遺産に恵まれ、古くは美作(みまさかの)国(くに)として、また城下町としては津山城を中心として栄えた歴史・伝統・文化に溢れる素晴らしい地域です。近年では行政及び各種団体が手を取り合い、地域活性化への取り組みを積極的に行い、観光開発への注目も多く集まっています。津山青年会議所も津山城を中心としたまちづくり運動を行うことで、この地域に住み暮らす「ひと」の郷土愛の醸成を継続して図ってまいりました。しかしながら人口減少問題など、我々がしっかりと目的意識をもち、取り組み続けるべき問題は依然として存在します。これまで継続して培ってきた想いと歩みを止めることなく、まちを想う機運を高め続け、地域に住み暮らす「ひと」の地域への愛着と誇り、そして何よりも自分たちのまちは自分たちで創るという気概と覚悟を持った「ひと」を今後も継続して増やしていく必要があります。また我々は青年経済人であると同時に、未来の希望である子供達を正しい方向へ導くべき責任世代であります。子供達を地域のたからとして、みんなで大切に育てること、つまり大人と子供が共に育みあい、愛情溢れるまちを創造することで、子供達が健やかに成長出来る社会を創造していかなければなりません。津山青年会議所には先輩方が築き上げてこられた行政・各種団体との素晴らしいネットワークがあります。この素晴らしい財産を活かすことで、今後のまちづくりに対する我々の見識を更に深めると共に、オピニオンリーダーとして積極的な運動を展開・発信し、地域から真に必要なとされる団体にならなければなりません。この共生と協働の精神は先輩方から引き継がれた津山青年会議所の想いであり、我々は今一度この意義をしっかりと考え、学び、進化させることで、青年会議所の存在意義を更に高めていく必要があると考えます。

本年創立60周年を迎えるにあたり、(一社)津山青年会議所の素晴らしい歴史・伝統を謙虚に学ぶ姿勢をもって紐解き、地域からの信頼と期待に青年らしい情熱溢れる姿勢で向き合い、夢と希望溢れる未来を創造すべく運動・行動指針を策定し、志を同じくする同志を更に増やしていくことで、(一社)津山青年会議所はこれからも「明るい豊かな社会」の実現に向かって、積極果敢に邁進してまいります。

#### 【仲間を信じ失敗を恐れない、自分自身の成長のために】

青年会議所は青年の学び舎と呼ぶに相応しい個人の可能性を切り拓く最高のひとづくり団体です。我々の住み暮らす地域が元気になるためには、まずはそこに住み暮らす「ひと」が元気でなくてはなりません。何よりも地域のオピニオンリーダーである我々JAYCEEが夢と希望に溢れ、元気でなくてはまちは決して元気にはならないのです。青年会議所にはかけがえのない学びや気づきの機会と、共に涙を流せるかけがえのない仲間がいます。青年会議所運動・活動に積極的に取り組み自己を磨きあげること、自分自身を常に省み謙虚に学ぶ姿勢をもち続けること、仲間のために次代のために伝える時は言葉よりも背中を見せ続けることを忘れず、最後には必ず自分自身の成長につながると信念をもち、前向きで情熱溢れる行動をしてまいりましょう。

#### 【我々が夢を語り合う事が地域の希望になる】

活力あるつやまを創造していくためには、まず我々JAYCEEが知識と言葉だけではなく、意識と行動を第一に地域の問題に目を向け、青年らしく未来に向かって夢を語り合い、能動的に運動展開をしていかなければなりません。素晴らしい歴史・伝統・文化溢れるつやまの活力ある明日のために、様々な問題を調査し議論をするだけではなく、未来をしっかりと見据え、夢を語り合い、想い溢れる運動を続けることが必要です。継続してきたからやるのではなく、地域に存在する魅力を常に青年らしい発想力で見つめ、地域から必要とされるニーズに対応できる視点を持ち、地域の発展に向けて未来につながる一步を踏み出してまいりましょう。

【青年会議所の魅力を心から伝えることが出来る時を過ごすために】

会員一人ひとりが胸を張って全力で青年会議所運動・活動を行っているでしょうか。青年会議所が他の団体とは違う、青年会議所にしかない魅力を胸を張って誰かに伝えられるでしょうか。青年会議所運動の目的達成への想いが強ければ強いほど、その結果は素晴らしい財産となり、プロセスはかけがえのない経験となります。一人で何かを成し遂げるには限度がありますが、誰かのため、仲間のためであるのなら揺るがない覚悟と気概をもち、自分自身の潜在的な能力を引き出すことが出来ます。青年会議所運動・活動の先にあるかけがえのない魅力を会員一人ひとりが心から感じることで、人に伝えること、人を惹きつけることが出来ると考えます。それが真の会員拡大につながり、青年会議所の存在意義を発信していくことになるのです。心に刻まれる感動を共に分かち合い、青年会議所の魅力を心から伝えてまいりましょう。

〈スローガン〉

# 万里一空

Go to the NEXT!!

## 〈基本方針〉

創立60周年を迎えるにあたり、これからの活力ある「つやま」を創造していくために、必要不可欠な運動指針を策定し、メンバーが互いに切磋琢磨し、自分自身の真の成長を信じ、積極果敢に行動することで、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、魅力溢れる運動を展開してまいります。

## 〈運動方針〉

- ・感動をつなげるひとづくり  
(信念をもち、積極果敢に行動できるひとづくり)
- ・感動を拡げるまちづくり  
(地域がひとつになり、心と心がつながるまちづくり)
- ・感動を分かち合うJCづくり  
(仲間を信じ、認め合い、一体感溢れるJCづくり)

## 2017年度 理事・役員名簿

理 事 長	鳥 越 俊 之	
直 前 理 事 長	菅 田 拓 平	
副 理 事 長	福 田 邦 夫	(【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議 議長) (第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会 実行委員長)
副 理 事 長	須 江 庸 司	(創立60周年実行委員会 実行委員長) (岡山ブロック協議会 副会長)
副 理 事 長	北 村 暢 宏	(総務拡大委員会 委員長) (中国地区協議会 総務渉外委員会 委員)
専 務 理 事 長	山 本 竜 義	
人 間 力 開 発 室 室 長	河 野 雅 樹	(津山市市民憲章推進協議会 事務局長)
地 域 力 推 進 室 室 長	片 山 英 之	(公益社団法人日本青年会議所 J C プランディング会議 議員) (鶴山を考える会)
事 務 局 長	小笠原 翔 太	
人 間 力 開 発 室 副 室 長	廣 田 勤	(中国地区協議会 総務渉外委員会 委員長) (特定非営利団体つやまNPO支援センター)
地 域 力 推 進 室 副 室 長	片 田 恭 裕	(まつりプロジェクト キャプテン) (鶴山を考える会)
会 員 指 導 力 研 修 委 員 会 委 員 長	森 山 裕 一	(岡山ブロック協議会 未来の豪傑増強委員会 委員)
広 報 渉 外 交 流 委 員 会 委 員 長	保 田 知 己	(岡山ブロック協議会 総務委員長連絡会議 副議長)
ま ち づ くり 委 員 会 委 員 長	金 田 長 一 郎	(岡山ブロック協議会 地域経済再興委員会 委員)
心 の 教 育 推 進 委 員 会 委 員 長	松 本 宏 光	(岡山ブロック協議会 全うな日本人育成委員会 委員)
2020年の森プロジェクト キャプテン	森 元 宏	

監 事	山 本 俊 輔	(中国地区協議会 総務渉外委員会 委員長幹事)
監 事	流 郷 知 寛	

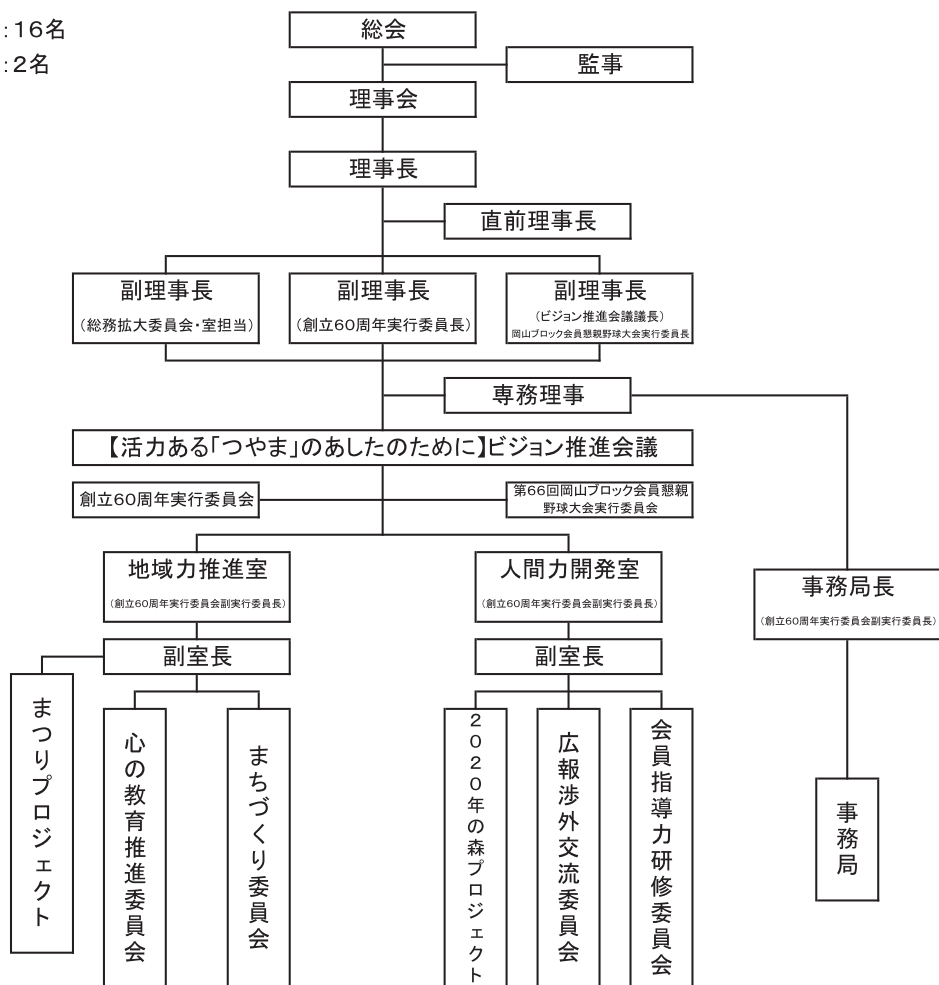
### ( 常 任 オ ブ ザ ー バ ー )

中 国 地 区 協 議 会	平 岡 大 樹	(総務渉外委員会委員長幹事)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	赤 本 淳	(副会長幹事)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	延 原 健	(副会長幹事)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	和 田 優 輝	(総務委員長連絡会議 議員)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	村 上 卓 也	(未来の豪傑増強委員会 副委員長)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	早 瀬 久 善	(地域経済再興委員会 委員)
岡 山 ブ ロ ッ ク 協 議 会	勝 山 和 昭	(全うな日本人育成委員会 委員)
全 国 城 下 町 青 年 会 議 所 連 絡 協 議 会	福 島 邦 洋	(鶴山を考える会)

## 2017年度(一社)津山青年会議所 組織図

理事:16名

監事:2名



※ビジョン推進会議議長は副理事長が兼務し、副議長は創立60周年実行委員長(副理事長)が兼務する。

※創立60周年実行委員長は副理事長1名が兼務し、室長2名事務局長1名を副実行委員長とする。

※岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員長は副理事長1名が兼務し、副室長2名を副実行委員長とする。

2017年度（一社）津山青年会議所 所屬表

理事長	鳥越 俊之	直前理事長	菅田 拓平	副理事長	福田 邦夫	副理事長	須江 庸司	副理事長	北村 暢宏	監事	山本 俊輔	監事	流郷 知寛
専務理事	山本 竜義	委員長名		委員長	北村 暢宏	副委員長	山本 竜義	幹事		委員・プロジェクトメンバー			
事務局長	小笠原 翔太	総務拡大委員会		北村 暢宏		菅田 拓平	山本 竜義		鳥越 福田 須江 河野 片山 小笠原				
人 間 力 開 発 室	室長 河野 雅樹	会員指導力研修委員会		森山 裕一		井上 高志 村上 卓也	國正 啓文		未澤 森元 赤本 矢山 岡田(修)				
		広報渉外交流委員会		保田 知己		和田 優輝	松田 和也		橋本 田邊 西村(明) 豊福 延原 芦田				
地 域 力 推 進 室	室長 片山 英之	2020年の森プロジェクト		森元 宏	副キャプテン 豊福 祥旗	副キャプテン 豊福 祥旗	藪木 建之		橋本 山本(俊) 眞木 村上 勝山 赤本 岡田(章) 國正				
		まちづくり委員会		金田 長一郎		早瀬 久善	石川 久		福島 西村(憲) 黒瀬(光) 黒瀬(論) 平岡 有木				
実 行 委 員 会	副室長 片田 恭裕	心の教育推進委員会		松本 宏光		勝山 和昭	岡田 章裕		小林 尾島 眞木 藪木 鈴木 岡 藤本				
		まつりプロジェクト		片田 恭裕	副キャプテン 田邊 久人	副キャプテン 河野 雅樹 片山 英之 小笠原 翔太	黒瀬 論隆		末澤 小林 山本(俊) 西村(憲) 西村(明) 流郷 藪木 黒瀬(光) 赤本 石川 岡田(章) 國正 鈴木 延原 平岡 松田 矢山 芦田 有木 岡 岡田(修) 小倉 藤本				
出 向	創立60周年実行委員会	実行委員長 須江 庸司		須江 庸司	副実行委員長 河野 雅樹 片山 英之 小笠原 翔太	副実行委員長 河野 雅樹 片山 英之 小笠原 翔太	眞木 祐治		片田 森山 保田 金田 松本 森元				
		第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会		福田 邦夫	副実行委員長 廣田 勤 片田 恭裕	副実行委員長 廣田 勤 片田 恭裕	矢山 香織		田邊 井上 村上 和田 早瀬 勝山 豊福				
一 般 社 団 法 人	岡山ブロック協議会 副会長 須江 副会長 赤本 延原 総務委員長 連絡協議会 副議長 保田 議員 和田 議員 森山 全国城下町青年会議所連絡協議会 理事 福島	中国地区協議会 総務渉外委員会		委員長 廣田	委員長 廣田	委員長 廣田	委員 北村		平岡 委員 北村				一般社団法人 津山青年会議所 〒708-0022
		地域経済再興委員会		委員 金田 早瀬	委員 金田 早瀬	委員 金田 早瀬	委員 金田 早瀬	委員 松本 勝山		全うな日本人育成委員会			

## 2017年度 (一社)津山青年会議所新会員名簿

区分	氏 名	勤 務 先	役 職
新 加 入 者	芦 田 雅 嗣	(有)サシコー家具店	本店店長・販売促進部部長
	有 木 聖 人	ありき	取 締 役
	岡 孝 男	河井林産(株)	企 画 営 業 係 長
	岡 田 修 委	津山信用金庫	支 店 長 代 理
	藤 本 裕 文	大進建設(株)	常 務 取 締 役

以上5名



# 2017年度 (一社)津山青年会議所 各室及び委員会・プロジェクト事業計画

会議・室・プロジェクト・委員会	内 容
【活力ある「つやま」のあしたのために】 ビジョン推進会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (一社)津山青年会議所の目的達成のための計画の統括管理及び実施推進</li> <li>2. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョンの推進</li> <li>3. 事業計画及び事業予算の検討調整</li> <li>4. 各室間の連絡調整</li> </ol>
第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会の統括管理</li> <li>2. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会のPR及び企画の推進</li> <li>3. 中国地区協議会及び岡山ブロック協議会との連携及び企画の調整</li> <li>4. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
創立60周年実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新ビジョン策定に関する調査・研究及び実施推進</li> <li>2. 創立60周年記念事業の統括管理</li> <li>3. 創立60周年記念式典及び祝賀会の企画・運営</li> <li>4. 公益社団法人に関する諸問題の調査・研究及び検討</li> <li>5. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
総務拡大委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務局の管理・運営及び掌握(専務理事への協力)</li> <li>2. 総会の運営及び総会資料の蒐集並びに理事会及び例会の議事録の作成及び保管・管理</li> <li>3. 褒章及び表彰に関する事項</li> <li>4. 定款・規約に関する事項</li> <li>5. (一社)津山青年会議所の組織に関する事項</li> <li>6. 会員拡大に関する情報の総括及び実施推進</li> <li>7. 日本J.C.会員拡大に関する情報蒐集及び手法の実施推進</li> <li>8. 入会・休会及び希望退会の受付並びに自動退会及び除名の取り扱い(専務理事への協力)</li> <li>9. 慶弔に関する事項</li> <li>10. J.Cボックスの管理</li> <li>11. 会員名簿の作成及び保管・管理</li> <li>12. 公益法人制度に関する事項</li> <li>13. 防災・減災・復旧に関する事項</li> <li>14. 他の会議体・委員会に属さない事項</li> </ol>
人間力開発室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (一社)津山青年会議所の目的達成のための計画の立案及び実施推進</li> <li>2. 人間力開発の啓発に関する事項</li> <li>3. 津山市市民憲章推進協議会事務局の総括・運営</li> <li>4. 「特定非常利活動法人つやまNPO支援センター」への参画</li> <li>5. 人間力開発室に所属する各委員会・プロジェクトの企画調整</li> <li>6. 会員拡大の実施推進</li> <li>7. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>8. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>9. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
地域力推進室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (一社)津山青年会議所の目的達成のための計画の立案及び実施推進</li> <li>2. 津山圏域の歴史・伝統・文化に関する事項</li> <li>3. 魅力ある地域力推進に関する事項</li> <li>4. 国際化に関する諸問題への対応</li> <li>5. 津山城を中心とした周辺市街地に関する情報蒐集及び調査・研究</li> <li>6. 全国城下町青年会議所連絡協議会への参画</li> <li>7. 「鶴山を考える会」への参画</li> <li>8. 地域力推進室に所属する各委員会・プロジェクトの企画調整</li> <li>9. 会員拡大の実施推進</li> <li>10. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>11. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>12. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
まつりプロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 津山圏域の祭事、まつりの調査・研究及び情報の発信</li> <li>2. つやま納涼ごんごまつり並びに津山まつりへの参画</li> <li>3. 音楽祭に関する諸問題の調査研究及び関連団体、機関への参画</li> <li>4. 『和っしょい!津山』に関する地域・行政・他団体への発信及び企画の推進</li> <li>5. 地域力推進室の計画に基づく事業の推進</li> <li>6. 広報に関して広報渉外委員会との連携</li> <li>7. 会員拡大の実施推進</li> <li>8. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>9. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会への参画</li> <li>10. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
会員指導力研修委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 月例会の企画・運営統括及び通知の発行</li> <li>2. 会員開発に関する事項</li> <li>3. 会員及び委員会の表彰具申</li> <li>4. 会員相互の友愛親睦及び体育厚生</li> <li>5. 会員の指導力に関する調査及び魅力の発信に関する事項</li> <li>6. 青年経済人としての会員の研修及び魅力の発信に関する事項</li> <li>7. 新会員の研修に関する事項</li> <li>8. その他会員に関する一切の事項</li> <li>9. 広報に関して広報渉外委員会との連携</li> <li>10. 人間力開発室の計画に基づく事業の推進</li> <li>11. 日本J.C.、中国地区協議会及び岡山ブロック協議会の委員会に関する事項</li> <li>12. 会員拡大の実施推進</li> <li>13. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>14. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>15. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進への参画</li> </ol>
広報渉外交流委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会への広聴広報活動・情報交換及び交流に関する事業の推進</li> <li>2. 地域・行政・他団体・各地J.C.との交流及び情報交換の実施推進</li> <li>3. 渉外に関する事項</li> <li>4. 対外的行事に関する会合の連絡及び通知の発行</li> <li>5. 各地J.C.の行事に関するメンバー参加の把握及び参加の推進</li> <li>6. 広報に関する事項</li> <li>7. マスコミ関係者及び記者クラブとの連携及びPR推進</li> <li>8. (一社)津山青年会議所ホームページの活用・運用</li> <li>9. 日本J.C.及び各地J.C.との意見情報の交換及び蒐集</li> <li>10. J.C.ニュースの発行</li> <li>11. 人間力開発室の計画に基づく事業の推進</li> <li>12. 日本J.C.、中国地区協議会及び岡山ブロック協議会の委員会に関する事項</li> <li>13. 会員拡大の実施推進</li> <li>14. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>15. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>16. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進への参画</li> </ol>

まちづくり委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域活性化のための諸問題の調査・研究及び事業の推進</li> <li>2. 津山城を中心とした地域の発展に関する調査・研究及び情報の発信</li> <li>3. 広報に関して広報渉外交流委員会との連携</li> <li>4. 地域力推進室の計画に基づく事業の推進</li> <li>5. 日本 J C、中国地区協議会及び岡山ブロック協議会の委員会に関する事項</li> <li>6. 会員拡大の実施推進</li> <li>7. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>8. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>9. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>
心の教育推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青少年、教育の諸問題の調査・研究及び事業の推進</li> <li>2. 地域社会の活性化に貢献できる地域人材の育成に関する事項</li> <li>3. 福祉に関する諸問題の調査・研究及び情報の発信</li> <li>4. 広報に関して広報渉外交流委員会との連携</li> <li>5. 地域力推進室の計画に基づく事業の推進</li> <li>6. 日本 J C、中国地区協議会及び岡山ブロック協議会の委員会に関する事項</li> <li>7. 会員拡大の実施推進</li> <li>8. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>9. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>10. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進への参画</li> </ol>
2020年の森プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020年の森のビジョンの調査・研究及び企画の推進</li> <li>2. 2020年の森の管理・育成</li> <li>3. 森の範囲の確認及び会員への啓発</li> <li>4. 管理小屋・橋・広場の維持・管理及び整備・拡大の検討</li> <li>5. 作業道の管理及び整備・拡大の検討</li> <li>6. タイムカプセルの管理及び会員への啓発</li> <li>7. 鎌・巻物の管理</li> <li>8. 人間力開発室の計画に基づく事業の推進</li> <li>9. 広報に関して広報渉外交流委員会との連携</li> <li>10. 会員拡大の実施推進</li> <li>11. 創立60周年実行委員会への参画</li> <li>12. 第66回岡山ブロック会員懇親野球大会実行委員会への参画</li> <li>13. 【活力ある「つやま」のあしたのために】ビジョン推進会議への参画</li> </ol>

# 一般社団法人 津山青年会議所 収支予算書

自2017年1月1日 至2017年12月31日

(単位:円)

科 目	2017年度	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
受取入金金	850,000	
受取入金金	850,000	50,000 × 17名
受取会費	7,350,000	
正会員受取会費	7,200,000	150,000 × 48名
特別会員受取会費	150,000	150,000 × 1名
賛助会員受取会費	0	
事業収益	0	
登録料収益	0	
業務受託収入	0	
雑収入	0	
受取補助金等	0	
受取国庫補助金	0	
受取地方公共団体補助金	0	
受取民間補助金	0	
受取負担金	0	
受取負担金	0	
受取寄付金	200,000	
受取寄付金	200,000	JCボックス
募金収益	0	
雑収益	525,067	
受取利息	1,067	
その他雑収入	0	
津山市民憲章受託費	264,000	22,000 × 12ヶ月
OB会通信費	260,000	2,000 × 130名
<b>経常収益計</b>	<b>8,925,067</b>	
(2) 経常費用		
<b>事業費</b>	<b>5,084,980</b>	
会場設営費支出	0	
人件費支出		
会場費支出		
設営費支出		
企画・演出費支出	0	
演出費支出		
本部団関係費支出	728,000	
設営費支出	0	
渉外費支出	728,000	奥北4JC合同例会、岡山ブロック大会、岡山ブロック野球大会
講師関係費支出	0	
記念品代支出		
資料作成費支出	0	
作成費支出		
保険料支出		
雑費支出		
委員会運営費支出	4,356,980	

(単位:円)

科 目	2017年度	備考
<b>管理費</b>	<b>5,594,504</b>	
会議費	732,000	
役員報酬	0	
給料手当	2,370,000	
退職給付費用	0	
福利厚生費	0	
旅費交通費	0	
通信・発送費	400,000	電話代金等
消耗品費支出	200,000	
リース料支出	180,000	コピー機リース料
印刷製本費支出	599,500	報告書 名簿
光熱水料費支出	168,324	電気代(12ヶ月)
賃借料支出	454,680	事務局・ルームの家賃、商工会館公益費、JC倉庫の賃料
業務委託費支出	108,000	会社アカウント・ホームページ管理費・ウェブページ制作・デザイン委託料
インフォメーション関係費支出	10,000	津山朝日新聞社
渉外費支出	272,000	
雑支出	100,000	
負担金支出	721,520	
JCI負担金支出	55,920	1,165円/名
日本JC負担金支出	270,000	日本JC会費30,000円、日本JC付加金9,000円/名
地区協議会負担金支出	48,000	1,000円/名
ブロック協議会負担金支出	96,000	2,000円/名
国際協力資金支出	87,600	1,825円/名
日本JC出向者負担金支出	20,000	20,000円 × 1名
We Believe購読料支出	144,000	3,000円/名
<b>経常費用計</b>	<b>11,401,004</b>	
評価損益等調整前当期経常増減額	0	
基本財産評価損益等	0	
特定資産評価損益等	0	
投資有価証券評価損益等	0	
評価損益等計	0	
当期経常増減額	<b>△ 2,475,937</b>	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益	0	
経常外収益計	0	
(2) 経常外費用	0	
経常外費用計	0	
当期経常外増減額	0	
他会計振替額	0	
当期一般正味財産増減額	<b>△ 2,475,937</b>	
一般正味財産期首残高	<b>6,348,777</b>	
一般正味財産期末残高	<b>3,872,840</b>	
II 指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	0	
指定正味財産期首残高	0	
指定正味財産期末残高	0	
III 正味財産残高	<b>3,872,840</b>	